



加西市玉野町のため池に飛来する白鳥
撮影場所 加西市玉野町



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸 谷 義 雄
定価 1部44円
(購読料は分担金に含む)
題字 井 戸 知 事

消したはず
決めつけないで
もう一度

迎 春



創造と共生の舞台づくり

兵庫県知事

井戸敏三

平成二四年新春のご挨拶を申し上げます。九ヶ月前の東日本大震災は、全国に大きな影響を及ぼしました。被災地は、ようやく復旧復興のスタートを切りました。一七年前、阪神・淡路大震災を経験した私たちだけに、これまで同様、これからもできる支援を続けていきたいと思います。二〇年になるデフレ経済、円高の長期化など経済社会にも不透明感が広がっています。また、兵庫も人口減少社会に突入しました。しかも、高齢化、少子化、地域格差の拡大を伴っています。今だからこそ、将来不安のない社会的枠組を再構築し、あわせて地域個性が発揮される元気な地域づくりを進めなければなりません。二二世紀兵庫長期ビジョンが見直されました。めざす将来像は、「創造と共生の舞台・兵庫」です。今こそビジョン、高い目標をもち、これをめ

ざして、ともに兵庫の未来を拓きましよう。第一は、安全安心の基盤づくり。東海・東南海・南海地震や、頻発する風水害への備えに万全を期すとともに、医療、健康、福祉、食など、安心基盤を確保します。第二は、質の高い生活づくり。若者の自立を応援し、出会い、子育て支援を進めます。地域づくり活動を助け、誰もが暮らしやすい社会をつくりたいです。エネルギー供給の多様化も見据えた再生可能エネルギーの活用など自然と調和した生活を拡大します。

第三は、新時代の経済社会づくり。緊急経済・雇用対策を講じつつ、先端科学技術基盤などの兵庫の強みを生かし、競争力を高め、新たな成長産業を振興します。また、TPP協定の議論を注視し、強い兵庫の「農」を

育てます。第四は、地域の元気づくり。都市と農村との交流、地域再生大作戦のさらなる展開、交流と連携を支える社会基盤の整備を進めます。国出先機関の丸ごと移管など、正念場を迎える分権改革に、関西広域連合一丸となつて取り組みます。

これからも、自立と連帯、安心と活力、継承と創造を基本に、明日の兵庫を築いていこうではありませんか。

夢を持ち 夢を求める 地域こそ

我が郷土で あるであれかし



新年のあいさつ

財団法人

兵庫県消防協会

会長 岸谷 義雄

新年あけましておめでとうございます。県下の消防団員・消防職員の皆様方には、ご家族おそろいで健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。平素は、消防協会の運営に格別のご理解とご協力を賜っており心からお礼申し上げます。また、皆様方には、日々訓練を重ねられ、災害時には危険に身を挺し、地域住民の生命と暮らしを守るため献身的に尽力されておられますことに対して、心より敬意を表します。

さて、昨年三月に発生しました東日本大震災は、津波災害、原発事故など、私たちが体験した阪神・淡路大震災をも越える未

曽有の大災害となりました。消防団関係者で犠牲となられた方も多く、改めて自然災害、とりわけ地震災害、津波災害の恐ろしさを痛感いたしますとともに、被災されたすべての方々の一日も早い復興を衷心よりお祈り申し上げる次第でございます。

このような大災害による厳しい状況を考えたとき、我々消防団員・消防職員は常に地域の安全・安心を守る要として大きな役割を担えるよう、十分な備えをしておかなければなりません。そのことよつてこそ消防機関に対する地域住民からの高まる期待に応えることができるものと考えております。

どうか皆様方におかれましては、今後とも住民の生命、身体、財産を守るという消防の崇高な使命を達成するため、なお一層職務にご精励いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年が災害のない平穏な一年でありますことを切に祈願し、県下消防団、消防本部のますますのご発展と皆様方のさらなるご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。年頭の挨拶といたします。

年 頭 の 辞



消防庁長官

久保 信保

平成二四年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分かたず消防防災活動にご尽力頂いておられます全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し

新春のご挨拶



財団法人 日本消防協会

会長 高木 繁光

平成二四年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員、消防職員の皆様が、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

昨年は、東日本大震災がございました。マグニチュード9.0の大地震、巨大津波、さらには原子力発電所事故まで加わり、約二〇〇〇人の死者・行方

上げます。

昨年の東日本大震災は、大地震に加え大津波により多くの尊い人命・財産が失われるとともに、今なお収束を見ていない福島第一原子力発電所の事故が発生するなど、未曾有の大災害となりました。

消防庁といたしましては、地震発生直後から、法制化以来初めてとなる消防庁長官の指示によって緊急消防援助隊を派遣し、岩手・宮城・福島の前災三県を除く、全国四都道府県から総数で三万人を超える隊員による献身的な消防活動を実施して頂きました。

また、昨年、各地に甚大な被害をもたらした非常に強い台風

第二号・第一五号等の風水害時にも地元消防機関においては、大変目覚ましい活躍を頂いております。

さて、近年の社会経済、生活様式等の変化により、災害等の形態も複雑多様化・大規模化の様相を呈しており、消防防災行政を取り巻く環境は大きく変化し、今更以上、迅速・的確な対応が求められております。

消防庁ではこれまでも、緊急消防援助隊の充実強化、消防防災体制の構築等を図って参りましたが、今日の東日本大震災における経験や今後もその発生が懸念される東海、東南海・南海地震あるいは首都直下型地震など大規模地震災害等を踏まえ

激ひとしおでした。

また、全国の消防関係者のご協力を頂いて、義援金や特別見舞金、消防車両の提供等、被災地への支援活動を行いました。全国からのご厚情に深く感謝申し上げます。

このような経験を踏まえながら、消防関係者は、消防活動の安全を確保しつつ、国民の安心・安全のため、日本消防の一層の充実を目指す必要があります。

日本消防協会では、まず、昨年七月、被災地の消防団から全国の消防団の皆さんに対し現場活動の状況を報告して頂き、さらにその後、大震災の際の消防団の活動記録を取りまとめられています。それらは、貴重な資料になると思われます。

政府においては、これからの消防防災についての検討を進めていますが、そこでは、事業所や住民も含めた地域の総合防災力を高めることが大きな課題になると思われますし、その中核

た、更なる消防防災体制の見直し・強化、消防団の活性化、救急・救助の充実・高度化、火災予防・危険物事故防止対策の一層の推進等、各般の施策に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

皆様方におかれましては、ますます我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、被災地の一日も早い復興と皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

としての消防団の役割りは益々重要になると思われま

消防協会では、これまでも国に対し救助活動や安全確保対策を含めた装備や訓練の充実、詰所の整備、団員報酬の改善、さらには勤務先事業所の理解向上など、消防団の活動環境の整備を要望しておりますが、引き続き、消防団員の確保対策を含めてこれらを一層推進するよう全国の消防団、消防関係者とともに全力を傾注して参ります。

平成二五年は、消防団一二〇年、自治体消防六五周年の記念事業を行うこととしておりますが、消防団に対する国民の皆さんのご理解をさらに高めることも目指しながら、本年から本格的に準備を進めて参ります。

最後に、全国の消防関係の皆様がますますご健健で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心よりお祈りして年頭のご挨拶といたします。

「平成二三年版消防白書」の公表

消防庁

この度、消防庁において、消防白書が公表されました。

消防白書は、国民の生命、身体及び財産を災害等から守る消防防災活動について紹介しているもので、毎年刊行されています。

平成二三年版消防白書では、第一部において、東日本大震災の概要や消防機関等の活動状況

消防庁ホームページ

(消防白書掲載ページ)

URL
http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h23/h23/index.html

「地域防災計画における地震・津波対策の充実強化に関する検討会報告書」の公表

消防庁防災課

東日本大震災を受けて、消防庁では、平成二三年六月から、有識者や地方公共団体の防災担当者で構成される「地域防災計画における地震・津波対策の充実・強化に関する検討会」を四回にわたり開催してきました。

この検討会においては、地方公共団体が地震・津波対策に係る地域防災計画の見直しを行う際に参考となる留意点や参考事例が取りまとめられました。これは、東日本大震災において、

地域防災計画における地震・津波対策の充実・強化に関する検討会ホームページ

URL
http://www.fdma.go.jp/disaster/chikibousai-kento/index.html

等について記述されています。

また、第二部では、火災をはじめとする各種災害の現況と課題、消防防災の組織や活動等について記述されています。

消防白書は、消防庁のホームページに掲載されているほか、政府刊行物サービステンターや主要書店などで販売されていますので、是非ご覧ください。

謹んで新春のご挨拶を申し上げます

財団法人 兵庫県消防協会

平成二四年元旦

- 井戸敏三
- 吉本知之
- 金澤和夫
- 藤原雅人
- 関山巧
- 岸谷義雄
- 柵木和明
- 岸本重男
- 荻野忠志
- 梅元義昭
- 小林正幸
- 嶋澤清美
- 浄慶康治
- 足立進
- 竹口弘之
- 井内進
- 中西君一
- 松本隆雄

わがまちの団長さん

183

ダジャレと姓名判断を武器に

香美町消防団 団長 青山 喜一



香美町消防団は、平成一七年四月に三町の合併により誕生しました。現在、三支団、三五分団、団員数一〇〇五名で組織され、兵庫県下で九番目に広大な面積(町では一番目)を管轄する消防団として活動しています。

青山団長は、昭和三二年六月に旧香住町消防団に入団され、

平成一〇年四月に副団長に、合併後の平成一七年八月に香住支団長に就任され、平成二三年四月に前団長の勇退を受け、第二代目の団長に就任されました。

団長は地元元の区長(一七年目)、町防犯協会会長、町結婚相談員、しゃくなげの里づくり会長など多方面で要職を務められ、また、ボランティア活動として、しめ飾りの講習会、歴史講座では講師を務めるなど、多忙な日々を過ごされています。

趣味が「消防」といってほど根っからの「消防人」です。また、花作り、歴史、カラオケ、姓名判断など多趣味で、特に姓名学には非常に詳しく、プロ顔負けのつわものです。

特技は人をなごませること、笑わせることで、特筆すべきは

消防団今昔

85

活気あふれる消防団

市川町消防団 団長 花桐 司



市川町は、兵庫県の中央からやや南西に位置し、町のほぼ中央を南北に流れる市川を中心に開けています。

市川町消防団は、昭和三〇年七月、川辺村、瀬加村、甘地村、鶴居村の四村合併により市川町発足に伴い旧四村の消防団を統

合して組織されました。以後、何度かの機構改革を重ね、現在分団数二六、団員数六〇〇名で組織されています。市川町消防団は二〇代、三〇代が中心に活動していて、田舎に残った者は消防団に入団することが当たり前の雰囲気があり、私もその流れで卒業と同時に入団しました。若手団員の確保が難しくなっている中で、市川町に住んでいる若者は消防団に入団するのが当たり前の地域づくりを絶やさないように、さらには「消防団に入るためにこの町に帰ってきた」という人が増えていくことを夢見て地域に根差した魅力ある活動を展開していきたいと思っています。

また、団員のサラリーマン化などで平日昼間に地元に残る団員が少なく、消防団組織で初期消火活動を行うことはほとんどなくなっています。このような社会構造の変化に伴い、地域住民を対象に初期消火訓練を開催するなど、住民の防災意識向上を目指すようになりまし

われら若手消防団員 (45)

地域の安心を守る!!

上郡町消防団

上郡分団

榎村 昂彦



私は平成二三年四月一日に上郡町の消防団に入団した、まだ一年にも満たない新米消防団員です。

年寄りが多く、火災や水害などが起きた場合の対処に不安を抱いている方も多いことと思えます。そのため、上郡町消防団は、住民の心の支えとなる非常に重要な存在です。入団当初は、地域の安全を守るといふ意識は乏しく、知識も熱意もない自分なんかが入っても大丈夫なのだろうかと悩む事も多々ありました。しかし日々の活動を通して、先輩方が、忙しい中でもきちんと責任を持って活動されている姿を見て徐々に考え方が変わっていき、今では熱意を持って消防団活動に取り組んでいる自分

がいます。我々上郡町消防団は、火災、水害時における防災活動だけではなく、地域の催し物や奉仕作業など地域活動にも積極的に参加しています。地域の繋がりが失われつつあるといわれている今だからこそ、消防団は地域を活性化させるための重要な役割を担っており、消防団員は地域を繋ぐ架け橋ともいえる存在であると思っております。その考えを常に念頭において、今後も日々の訓練・活動に励み、与えられた責任と役割を果たしたいと考えています。

「消防団員入団促進キャンペーン」スタート!

消防庁・兵庫県消防課

総務省消防庁では、消防団員の退団者が毎年三月末から四月にかけて特に多い時期を迎えることから、今年度も一月から三月にかけて、全国的な「消防団員入団促進キャンペーン」を実施します。

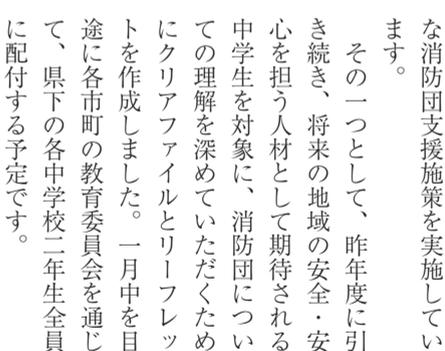
このキャンペーンの期間中には、広報誌、ケーブルテレビ及びホームページ等のあらゆる広

報媒体を通じて、効果的な広報を推進するとともに、キャンペーン期間中に開催される各種イベント等において、消防庁で作成された「消防団員入団促進ポスター」、「消防団員入団促進リーフレット」を活用していただき、消防団員募集の広報を推進していただきますようお願いいたします。

消防団は、就業構造の変化や地域社会への帰属意識の希薄化等の社会環境の変貌に伴い、消防団員数の減少、団員の高齢化など様々な課題に直面しています。

これらの課題に対して、兵庫県・兵庫県消防協会では、様々な消防団支援施策を実施しています。

その一つとして、昨年度に引き続き、将来の地域の安全・安心を担う人材として期待される中学生を対象に、消防団についての理解を深めていただくためにクリアファイルとリーフレットを作成しました。一月中を目途に各市町の教育委員会を通じて、県下の各中学校二年生全員に配付する予定です。



消防団活動啓発クリアファイル・リーフレットの中学生への配付について

県消防協会

なお、このクリアファイル・リーフレットは、若干の残数がありますので、消防団のPRグッズとしての活用を希望される場合は事務局を通じて県協会までご相談ください。

「こんにちは! ひょうごの消防団です」 http://www.hyogoshoubou.jp/ (財)兵庫県消防協会

故郷を歩く

玉津史跡めぐり

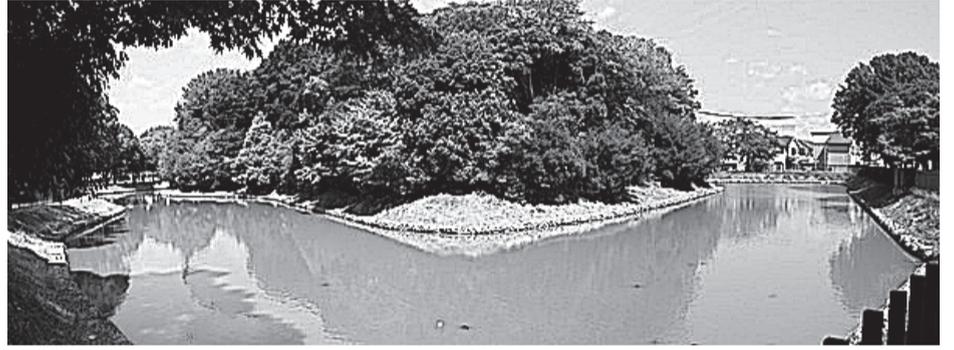
神戸市西消防団玉津支団

われわれ玉津支団が担当しております玉津地区は神戸市の西端にあたり、南西区域が明石市の中心部に隣接しており、神戸市西区の中では最も早く都市化の波を受けた住宅や商業施設が多い地域です。明石平野に位置し中心に明石川が流れ水に恵まれていたこともあり、近畿地方では最も古くから水田稲作が行なわれ、播磨吉田遺跡、新方遺跡など弥生時代前期に属性する農村集落が誕生し多くの遺跡が残っております。今回はこの歴史豊かな玉津をご紹介します。

次は吉田南遺跡です。昭和五一年に神戸市水環境センターの工事で発見され、弥生時代から室町時代に至る一千年以上続いた集落遺跡です。特に奈良時代後半から平安時代の整然と並ぶ堀立柱建物などから明石郡衛跡と推定されています。又日本で最初に発見された奈良時代に木橋は幅約二〇mの河川に架かっており当時話題となりました。水環境センターのロビーには遺跡から出土した弥生時代から鎌倉時代にかけての土器などが展示されています。

まずは王塚台古墳より。五世紀頃築造された明石川流域最大の前方後円墳で、全長一〇二m、周囲に濠を廻らしよく原形を保たれた古墳です。日本書記の推古天皇十一年に「秋七月辛丑の朔癸卯に当麻皇子難波より発船す、時に従う妻舎人姫王赤石に墓せぬ。仍りて赤石の檜笠岡の上に葬る」とあることからこの古墳を舎人姫王のお墓とする説

があります。陵墓参考地として指定され宮内庁が管理しています。周囲は王塚史跡公園となっており、春になれば桜が咲き誇ります。



王塚台古墳



吉田南遺跡



吉田郷土館



玉津地域は、ここ三〇年間で急速に市街化が進んできましたが、かつての平和で豊かな田園地帯の玉津をいつまでも語りついでいかななくてはと思います。

為、一世紀半にわたる枝吉城の歴史は終えました。その後城跡東斜面に一六二一年、神本神社が創建され現在に至っております。又隣には吉田郷土館が建てられ地域文化の拠点となっております。館内には吉田片山遺跡、新方遺跡などからの出土物や歴史資料が展示されています。

地区通信

平成二三年度 消防団総合訓練を実施

女優・平愛梨さん一日消防長として来場

明石市消防団

明石市は、統計一三五度の日本標準時子午線上にあります。また、瀬戸内海に面しており、明石海峡をはさんで淡路島を眼下に望むことができます。

土愛護のもと、地域の安全、安心のため各種活動を行っております。

気候は温暖で、古くは万葉歌人柿本人麿によって多くの歌が詠まれた風光明媚な地です。

平成二三年一二月六日(日)に毎年開催される「明石市消防団 総合訓練」が市内の小学校で開催されました。

さらに、阪神都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路、四国とを結ぶ位置にあり、海陸交通のうえで重要な拠点となっています。

まず、訓練に先立って「ひょうご消防のつどい」にて授与された表彰状の授与式が催され、団長より「地域における最前線の活動機関として、火災はもちろん、風水害等による災害を防止し、地域住民の安全を守るという任務の認識及び重要性」について訓示がありました。

現在、市の面積は四九二四km²、周囲は六〇・九kmです。距離は東西に一五・六km、南北に九・四kmとなっております。

続いてこの日は、秋季火災予防の事前期間イベントとして、地元明石市出身の女優・平愛梨さんが一日消防長として来場し、消防団員に優しく激励しながら、「私も明石市から火事を出さないよう火災予防についてアピールしていきます。これから寒くなりますが、皆さんも身体には気を付けて頑張ってください」とエールをもらいました。



平愛梨さんと

総合訓練は、小学校の運動場で約一五〇名が消防団員として必要な「訓練礼式」「号令・命令及び指示」の訓練及び出初式に向けての部隊訓練を実施する



総合訓練の様子

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

さて、今月号では各団体代表者の年頭のあいさつを掲載しております。また、今月も各地区から多数寄稿をいただき、ありがとうございます。

皆様方におかれましては、新しい年を迎え、地域を守る決意を新たにされ、改めて消防団活動に取り組んでおられることと思います。

本年も「兵庫消防」を愛読のほどよろしくお願いいたします。